

藍川ならではの関わり合い

岐阜市立藍川北学園 9年

長屋 磨心

皆さんは小さな学校といったらどんなことを思い浮かべますか。私は山奥にあり、各学年の在籍が数人程度で全員が顔見知り、というイメージがあります。私が通っている藍川北学園は、児童の人数が少なかった藍川小学校と藍川北中学校が1つになり、今年から義務教育学校の藍川北学園となりました。しかし、全員が顔見知りというほどの人数ではないし、それほど山奥というわけでもありません。言ってしまうと、中途半端な学校です。中途半端というあまりよい印象を与えませんが、そうではありません。私は、強みの1つに地域の方との関わりがとて多いということがあると思っています。地域の方との関わりといっても、どんなことがあるのか、例を3つ挙げて紹介します。

1つ目はふれあい講座です。ふれあい講座とは、年に1回行われ、自分が体験してみたいことを地域の方に教えていただけるという活動です。学年によって内容が少し違い、1年生から9年生まで楽しむことができます。フラワーアレンジメントやチェス、グラウンドゴルフなど、屋外から室内での活動まで幅広く、低学年とも地域の方とも一緒に楽しく活動できます。私は去年チェスを選びました。ルールなど分からないことだらけでしたが、地域の方がやさしく教えてくださったおかげで、とても楽しかったです。

2つ目は部活動の指導をしていただけることです。私は現在、音楽部として箏の演奏をしています。そもそも箏を部活動で扱う学校が少ないのですが、そんな中でも私たちは地域で会を結成している方々に教えていただくことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。演奏の技法など、顧問の先生だけでは難しいところも成長でき、繊細な音色で演奏できるのが嬉しくて、私はいつも部活動が楽しみで仕方がありません。また、地域などで演奏することも、嬉しいことの1つです。いろいろな曲にチャレンジしたいと思えます。

3つ目は見守り隊です。地域の方は善意で、私たちの安全な登下校を見守ってくださっています。毎日、雨でも夏でも冬でも同じところに立って笑顔で挨拶してくださいます。「気を付けてね。」や「今日暑いね。大丈夫。」など、こちらを気遣う言葉もかけてくださいます。安全を守るだけではなく、笑顔や挨拶によって私たちに元気をくださるので、私たちも気持ちのよい挨拶を返そうという思いになります。

他にも地域の方との関わりはたくさんありますが、今紹介した3つのことは特にありがたく感じています。一方で、地域の方に頼りすぎているのではないかと感じる瞬間もあります。私たち自身でできることもあるのではないのでしょうか。例えば下校、全校で一緒に帰る「仲よし下校」で、私たち後期課程の生徒が安全に気を配りながら下校することができると思います。また、地域のイベントや活動など、私たち藍川北学園の生徒が、もっと地域に出ていくこともできると思います。

私たちの学校の今年のスローガンは、ひらがなの「わ」です。輪っかの「輪」や平和の「和」など、いくつかの漢字を当てはめることができます。輪っかの「輪」では、みんなが仲良くなり輪のようにつながってほしいという思いが込められています。このスローガンにある“みんな”は、学校だけでなく地域にも広げることができる言葉だと私は思っています。藍川北学園は、大きな学校とも小さな学校とも言えません。だからこそ、地域とつながることができます。さらに私たちは現在、地域の方に恩返しができないかと、藍川北学園独自の授業である「わかあゆ学」の時間に9年生で意見を出し合っています。普段お世話になっている方々に何かをしたいと思えるのは、それだけ私たちがずっと地域の方と関わってきた証拠です。私はそんな環境である藍川に住んでいることを誇りに思っており、これからも、たくさんの方とつながり、感謝を伝えていきたいと思っています。